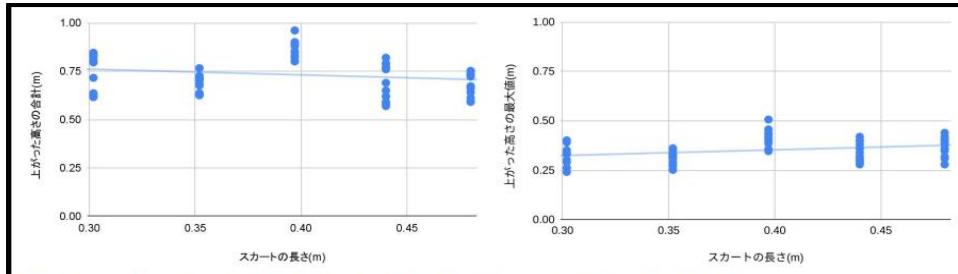


レポート作成上のルール

- レポートには「要旨」「背景・目的」「仮説」「方法」「結果」「考察」「結論」「今後の展望」「参考文献」の9項目を記載する。ただし研究内容によっては「仮説」は省略しても良い。
- 用紙サイズは「A4」を使用する。
- フォントについて
 - 日本語は「明朝体」またはそれに準ずるもの、英語は「Times New Roman」またはそれに準ずるものを使用する。
 - 本文のフォントサイズは10~11ポイントにする。本文以外については不自然の無い範囲で変更してもよい。
- 英数字は、全角を使用せず半角で表す。
- 図・表について
 - 図や表にはタイトルと通し番号をつける。
 - 写真、グラフは「図」に含める。
 - グラフには[軸]と[単位]をつける。

例



- 「です・ます調」ではなく、「だ・である調」を使う。
- 生物名を記載するときは、初回は必ず学名で記入する。その際はイタリック体(斜体)にする。
 - × 納豆菌
 - *Bacillus subtilis*
- 化学式を用いる場合は、「上付き」「下付き」を選択し、正しい表記にする。
 - × $MnO_4^- + 8H^+ + 5e^- \rightarrow Mn^{2+} + 4H_2O$
 - $MnO_4^- + 8H^+ + 5e^- \rightarrow Mn^{2+} + 4H_2O$
- 参考文献の書き方
 - 通し番号をふる。
 - 書籍の場合
 - ⇒ 全著者の氏名または組織名 (発行年) 『書名』 発行元
例: 本厚木研究会(2022)『本厚木の研究』 ○○出版
 - ウェブページの場合
 - ⇒ 全製作者の氏名または組織名 ウェブページ名 URL 閲覧した年月日
例: 厚木太郎 2022 本厚木駅の七不思議 <http://～> 2022年10月1日閲覧
 - 本文中への引用の仕方は以下のとおり
 - ①文末に入れる場合
 - ⇒ [その文献の通し番号を、上付き文字にする]
例: それは○○○である¹。
○○○ということである^{2, 4, 7}。
 - ②文献の著者名・団体名を出す必要がある場合
 - ⇒ [著者名・組織名に、上付き文字で通し番号を添える]
例: 大沢⁸は、○○○であることを示した。